

平成30年度第2回米子市社会教育委員の会 開催結果

平成30年度第2回米子市社会教育委員の会を開催しました。

○日 時 平成31年 3月22日（金）午前9時30分から11時30分

○場 所 米子市立図書館 2階 研修室3

○出席者

【委員（順不同）】

小谷幸久委員（副会長）、内藤英二委員、ト蔵久子委員（会長）、
實近孝子委員、足原陽子委員、今出和史委員、永見真里子委員、星野章作委員
（欠席：内田弘之委員）

【事務局】

教育委員会事務局生涯学習課 片岡課長、安田課長補佐、橋本主任

○日 程

1 開 会

2 協 議

（1）社会教育委員の役割などについて

※西部教育局社会教育担当下前係長から、社会教育委員の役割について説明いただきました。

（2）活動事例の紹介などについて

※鳥取県教育委員会事務局社会教育課田中社会教育主事から、県内他市町村の社会教育委員の動きなどについて説明いただきました。

（1）（2）の説明を受けての質疑

《星野委員》

県内町村では、人口1万人に満たない自治体規模で、とてもコミュニティ性を持って社会教育委員が活動しているところもあることが分かりました。それに対して、米子市内では例えば人口8千人の地域があり、親密なコミュニティが築かれている、とも言えない状況のなかで、委員の知名度がネックとなって活動しづらい、ということも生じかねないと思います。そうした規模の違いによる動き方の差異、といった点を考えつつ、我々は活動する必要があると思います。

ひとつ私が思うのは、的を絞った活動を行うこと。地域のなかでも的を絞って、活動を仕上げていくことも必要なのかな、と思いました。

《下前係長》

町村と違い、米子市は大きなフィールドでの活動が求められます。そのなかで、何をキーポイントにするのか。例えば公民館や、地域の団体をひとつのターゲットにして連携する、といったことが考えられるのではないのでしょうか。

《星野委員》

私は、凧揚げの凧作りをとおして地域でも活動させてもらっていますが、学校のクラブ活動に今回初めて、直接子どもに教える立場として参加させてもらいました。コミュニティスクールという制度が県内でも始まりつつあるようで

すが、形は違っても、この活動を将来に向けて定着させていきたいです。

それから、社会教育委員だけの話ではないですが、市には他にも色々な委員がおられると思います。有名になることが大切、とは言いませんが、この委員はこうした目標に向けてこんな活動をしているんだ、ということを知らせる、ということも必要ではないでしょうか。

《下前係長》

県としても、社会教育委員の知名度を上げる努力をしたいと思います。米子市さんでも、力を入れてもらえればと思います。

《ト蔵会長》

以前は、委員の名前を市内公民館職員に伝えていたと思います。今はどうしておられるか分かりませんが。

さきほどの星野委員の発言にありましたが、他市町村の動きはありますが、米子市がどう動くのか、モデル地区のようなものをひとつ設定して、その地区に社会教育委員がどう関わるのか、という方法をとるのもひとつかと思います。

今、色々な研修などでよく言われるのは、委員による課題解決への手助けが求められている、ということです。委員が地域の困り感を聞き取って、会の中から発表された、という例を聞いたことがあります。

《今出委員》

資料についてですが、これだけの量を印刷するのは事務局も大変だと思います。予めデータ送信でもしておいてもらえれば、少しだけでも見ておくのと、会で初めて見るのでは全く理解が違うと思います。せっかく会のために時間を調整して集まっているのですから、時間の有効利用にもう少し工夫が必要かと思います。そうすれば、より有意義な意見交換を行うことができるのではないのでしょうか。

公民館についても、自分にとっての大切な時間を割いてまで、公民館に行っ何かをしよう、講座に参加しようとして現代の若い世代の人たちが思うかどうか、という点を考えないといけないと思います。

《實近委員》

自分の地域で動くことができても、他の地域にまで活動範囲を広げることができるか、という点が問題ですね。地域の困り感を吸い上げることくらいならできるかな、という気はします。ただ、私は自分で自分のことを社会教育委員だ、と考えて動いていることはないです。

(3) 米子市の社会教育関係施策などについて

※生涯学習課から、31年度に予定されている社会教育施策について説明しました。

(3) の説明を受けての質疑

《星野委員》

社会教育委員は、社会教育法などによって立場がはっきりと定められているようですが、さきほども少し話をしましたが、他の委員についても、法的に基づいた委員、としての立場なのではないでしょうか。色々なセクションの委員の方々と連携することも必要かと思いました。

《事務局》

米子市は人口15万人弱、公民館は29館あります。近隣自治体と比べると規模が大きいです。今まで合併を繰り返して大きくなった経過があります。良い・悪いではなく、そうした経過ひとつとってみても、やはり違いがあります。そこで働く職員、暮らしている住民さんが抱くであろう困り感も、自ずと違いがあると思います。米子には米子の社会教育委員さんの動き、というものがあると思います。その意味で、何らかの力をお貸しいただければ、と思います。

《内藤委員》

スポーツ推進委員について説明しておきます。自治体において定数を定めて、委員を置く、という形によって、法律で定められています。非常勤の特別職です。報酬もあり、米子市には75名の委員の方がおられます。

《今出委員》

せっかく社会教育委員になったので、市立図書館の雑誌スポンサーに申し込もうと思ったのですが、手続きが煩雑なので参りました。もう少し簡単な方法を検討いただけたら、と思います。

日々図書館をよく利用させてもらっていて、ある意味寄付のようなつもりで思っていたのですが、もう少し楽になれば、と希望します。

《事務局》

図書館の書籍は、広く利用者の方が目にされるものですので、公平性などを確保するために、申し込みの時点で色々な制約を設けています。お手数ですが、色々な確認を取らせていただいたうえでの承認、という制度としていますので、ご理解いただきたいと思います。

3 その他

※ト蔵会長から、来年度の研修会日程などとあわせて、以下についてのお話がありました。

- ・委員用の活動記録を作成すべきでは、という件
- ・31年度公民館大学などへの参加要請
- ・委員が研修会などに参加する際の事務局による送迎の件

《事務局》

皆様がお持ちの技術や能力を、ぜひ市の社会教育施設である公民館でも発揮してほしいと思います。その情報を、公民館に情報提供させてもらえたら、と考えています。委員の皆様と公民館との橋渡し役を事務局で担当できれば、と思います。

《ト蔵会長》

地域で何が問題なのか、という点を話し合う場が設定できれば、と思います。年間2回は事務局の方で設定いただいています。報酬なくても、そのような会を開催してはどうかと考えていますので、その際には、ご協力よろしく願います。

《今出委員》

今日の会は、ほぼ情報伝達の会だった気がします。意見交換にならないのであれば、会の回数を増やしても意味ないと思います。それでも回数を増やすのであれば、会のなかでしっかりと意見交換できる雰囲気を整える必要があると

思います。また、意見を出し合うのが目的なら、SNSなどのツールを活用する方が早いのではないのでしょうか。

《足原委員》

私は支援が必要な子ども達を見ていますし、一番興味があるのはその分野です。その子達も将来的には社会に出ていくわけで、そこに向けての支援、というものを日々考えています。そこから一歩踏み出しての活動、というところにはまだ至っていないのかな、という思いでいます。

《永見委員》

委員ではありますが、一市民としての視点から見ると、この会での話と、一般的な市民が社会教育というものに対して抱いているイメージ、感覚の間には、とても距離があるような気がします。日々の仕事があれば、委員として活動しようとしても、どうしても時間に制約があって、活動できないという現実があります。

また、学校教育と社会教育、必ずなくてはならないものと、ないよりはあった方がよいもの、という分け方は乱暴かもしれませんが、その点市民の感覚はどうなんだろう、理解してもらう必要があるのだろうか、という思いがあります。

《事務局》

社会教育というものは、本当に幅広いものであり、意識しなくても実践されているような例や、そのような人物もたくさんおられます。他の何かと対抗しようとする肩肘張って行うものではないと思っていますので、その意味で委員の皆様には何かを求めようとしているものではないです。

《實近委員》

さっきも言いましたが、社会教育委員として動くのではなく、一人の地域住民のボランティア活動としてしか私は思っています。

《永見委員》

ボランティア活動は、自身がある程度満たされていて、余裕がないとできませんよね。若い世代は生活のこと、子育てのことで想像以上に忙しいんです。

今の高齢者の方々は昔に比べて元気なので、ずっと働いておられる。孫の面倒を見る時間もない、という状況で、若い世代が時間を作ることはなかなか難しいです。昔に比べて非協力的だとか、関係が築けないとか、そんな言葉だけでは割り切れない要素もあると私は思います。

《小谷副会長》

先日他市の公民館にでかける機会があったのですが、建物の違いに驚きました。米子市よりは小さい自治体ですが、大きいと逆に出来ないこともあるのかな、と思いました。

《ト蔵会長》

今日はとても資料が多くありました。次回は6月くらいを検討したいと思います。可能であれば午後開催で設定いただければと思います。長時間ありがとうございました。